

キッズ ふくしま インタガダ

第2号

2014年10月15日

(発行)

キッズふくしまインタガダ実行委員会

(事務局)

〒943-0892

新潟県上越市寺町2-24-4

真宗大谷派高田教務所内

TEL:025-524-3913/FAX:025-524-2645

URL:<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>



海岸でカニ捕獲?

～ホームステイ先(糸魚川市)にて～



みんなでピザ作り

～池の平青少幼年センターにて～

七度目のキャンプを終えて

副実行委員長

高田教区第五組 聴信寺

こた さとし
居多 啓

この夏、多くの方々のご協力のもと、無事七度目の保養を終えることができました。ありがとうございます。子ども達は元気いっぱい楽しんで帰っていききました。

僕自身「キッズふくしま」には昨年のサマーキャンプから関わらせていただいていたので、今回で三回目の参加となりました。「子どもが来るから遊びに来いよ」と誘われたのがきっかけで、それ以降もまた子ども達と会いたくて「キッズふくしま」に関わり続けているのですが、自分が何故関わり続けているのか自分の中でうまく整理できていませんでした。

そんな中、先日、福島にお住まいの方のお話を聞かせていただく機会がありました。様々な想いを語ってくださったのですが、その中でも「僕はただ、家族と、大切な人達と

笑いたい、楽しく過ごしたいだけなんです。」という言葉が強く胸に刺さりました。

そうだよなあ、それが全てだよなあ。当たり前のようにですが、すごく大切なことだと思います。僕も大切な人達と笑っていたいです。大切な人達の笑顔が見たいです。でもそれが難しい現実があるんだと、今更ながら知らされました。

また、その方の話を聞いた時に色んな顔が頭に浮かびました。家族や友人、先輩、後輩、ご門徒さん、「キッズふくしま」に来てくれる子ども達もです。「キッズふくしま」で触れ合う子ども達は僕に笑顔を見せてくれます。「また来るね」と言ってくれます。僕はこの笑顔をなくしたくないです。また来たいという思いに応えたいですし、なにより僕がまた会いたいんです。

自分に出来ることは何か。自分が見たいことは何か。「キッズふくしま」はこの先も活動を続けていきます。そのためには皆さんのお力添えが必要です。どうか力をお貸しください。これからも「キッズふくしま」をよろしくお願いします。



キッズふくしまインたかだ サマーキャンプ 2014

2014年 7月31日～8月6日



46名の子供たちは
元気いっぱいです



オリエンテーションと
ウエルカムパーティー

池の平
1日目 (7月31日)
青少幼年センター到着



2日目 (8月1日)
ハイキングと川遊び

半日かけてハイキングをしました。リブランの森を通り、中部北陸自然遊歩道を歩いて水辺の広場に到着。関川の源流なので真夏でも水は冷たいっ！いっぱい川で遊ぶこともできました。

夜はナイトハイク。ろうそくが灯る中でお話を聞いてから、夜の池の平を散策。途中には驚きの仕掛けもたくさんありました。





3日目 (8月2日)
自由活動



班別に計画を立てて、ピザ作りやクッキー作りに挑戦しました。薪を割って火を起こしてご飯を炊いたり、ピザやクッキーを焼いたり、みんなで協力して作りました。



飯ごうと羽釜で炊いたご飯でおにぎり



手作りクッキー



飛び入り参加のガチャさん

夜はバーベキュー&花火大会の予定でしたが、あいにくの雨。その分、ジャンベ(アフリカ太鼓)の生ライブが繰り広げられました。近所の人にも音に誘われて訪問して下さり、みんなで大いに盛り上がりました。





かき氷食べてホームステイ先へ出発



センター最終日の朝は「ヨガ体操」



サマーキャンプ前半、センターでの思い出をのれんに残しました

「キッズふくしまインたかだ」を振り返って

スタッフ 山下 正樹

やました まさき

今年の1月中頃、京都の真宗本願同朋会館で一人の男の人に声をかけられた。僕がアフリカ音楽をやっていたり、坊主でもある事を話すと「君面白そうやなく、新潟来るか？」と声をかけてくれた。

「春と夏に新潟で福島から子供たちを呼んで、新潟で安心して外遊びが出来る環境を整えて子供たちに遊んでもらうイベントやつてんねん」との事だった。

春はスケジュールがバタバタとしてしまい参加出来なかったが、夏は十分にスケジュールが組めたので太鼓の教え子を誘い参加した。

班担までさせてもらい、実際に参加すると、今まで自分の中で「子供たち」と一括りにしてしまっているのを強く感じた。子供たち一人一人の個性をひとつの形や価値観でまとめる事は不可能で、日程中のスタッフミーティングの中でも「ここは学校じゃないのだから・・・」という話がたくさん出た。「答えや、これが正解です」を押しつけるのではなく、「この方が良いかな？失敗するかな？うまくいくかな？」という、問いを子供たち一人一人が主体的に考えられる環境を整えていく事が大切じゃないかと何度も話し合われた。

スタッフ達もある意味手探りで、回答のない中で試行錯誤しながらの生活であった。日頃いかにマニュアルの様な回答「こんなもんやろ。これが普通や」という他人任せな正解に頼って、一つ一つを考えて自分の責任として発言したりすることが少ないかを痛感した。

子供達のパワーに圧倒されながらも、時々子供たち

から発せられる悲しみの声を垣間見ては、なんとも言えない気持ちになり、それでも目の前の子供と一緒に考え、一緒に遊び、一緒に学ぶ事しか出来ないことを感じさせてもらった様に思う。

ホームページを開設しています

これまでの「キッズふくしまインたかだ」の取り組み、今後の予定などを、たくさんの写真と共に随時アップしています。ぜひアクセスしてみてください。

なお、この広報誌のPDFデータもアップしています。印刷・拡散いただければ幸いです。 ※PDFデータはカラー紙面です

<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>



キッズふくしま

郡山市 小学3年生 遠藤 海來さん
えんどう みらい

海來が一番楽しかったことは3つあります。一つ目はカエルをつかまえたことです。スタッフのウッチーが海來のこと呼んだら、そここうにウシガエルがいたのでつかまえました。海來がウッチーにカエルを見せたらウッチーがにげました。おもしろかったです。ウシガエルを初めてさわったからドキドキしました。

二つ目は川あそびです。へびのぬげがらをゲットしました。水をスタッフにかけました。わざとです。「ごめんさい」。

川でおにごっこをしました。おにはスタッフでメガネのコタくんと海來でした。柚葉(ゆずは)とるかちちゃんともえちちゃんとりんちゃんにはげる人で、やりかたはおにの人が、水をかけてあたった人もおにになる。ほかに、電池さがしゲーム。やり方はジャンケンでかつた人が目をかくして、電池をなげて二人でさがす。早くみつけたほうが勝ち。そういうゲームで海來とスタッフのコタくんをやったら3回目で電池がなくなりました。「まんねん」。

三つ目はきもだめしでへやにはいつているとき上の戸のところアッキーが手を出していたので、りんちゃん弟のかいくんがアッキーにおこっていました。みんなナイトハイクに行くときに男の子たちが「こえだしていこうぜ！」と言っていたのでたのしくなりました。それに朝、女の人のスタッフとさんぽに行くとき、きもだめしとおった道と一緒にたからからくみちがわかっていたのでよけたのしかつたです。今度も花火大会や、ラジオたいそうをしたいです。

ホームステイ先での過ごし方 (抜粋)

イベント・外出	自宅(寺院)での様子
プール・海で水遊び	バーベキュー
水族館見学	肝だめし
花火大会見物	花火
ゴーカート	本堂掃除・仏具お磨き
パターゴルフ	ステイ先家族との団欒
科学館・館内公園で遊ぶ	夏休みの宿題
他ホームステイ先と交流	境内で遊ぶ
寺院行事への参加	洗濯・炊事の手伝い

として迎え入れて、短い時間を楽しく有意義に過ごしてもらえようような工夫を凝らしていました。

4日目 (8月3日)
～7日目 (8月6日)
各寺院でホームステイ

高田教区内寺院10か寺と新井別院でホームステイの受け入れをしてみました。それぞれのステイ先での過ごし方は様々でした。たくさんの方のイベントの他、洗濯や食事の準備などの家事の手伝いもしてくれた家庭もあり、皆さん家族の一員

etc.



ステイ先での様子 ①





ステイ先での様子 ②

サマーキャンプの思い出

いわき市

小学5年生

野澤

凛さん

のざわ

サマーキャンプは満足でしたが、できればホームステイ中に他のホームステイ先とも交流して、色々な人とたくさん遊べるようにしてほしいなと思います。

私は3月11日の地震が起きた時、一年生のみなどと下校中でした。急に地震が起きて、お母さんの妹が迎えに来てくれて家に帰ると家の中はもう、ぐちゃぐちゃになっていました。テレビをつけても地震のニュースしかやつてなくて、みんなが「千年に一度しかない地震だ」と何回も言っていました。原発が大変なことを知って私が一番心配になったのは、おじいちゃん達や親戚のことです。

私の親戚の半分ほど

は、原発の30キロ圏内に住んでいるからです。親戚はみんなうちに避難してきました。もっと心配だったのは、松島にいるいとこのことです。松島は海が近いので、いそここの家に津波が来ていたらどうしようと思うことが怖かったです。でもいそこは無事だったので良かったです。親戚はみんないわき市に家を建てて、それぞれ暮らしています。うちには家族が二人、おじいちゃんとおばあちゃんが増えました。それから私は、心配性になってしまいました。

今回のキャンプで一番楽しかったことは、色々な人と交流ができて、友達が増えたり、今まで同じホームステイ先だったけど、新しいホームステイ先になって、交流が深まったのがうれしかったです。あと、勝念寺さんで水族館に行つて、色々な魚やペンギンを見たり、お土産を買ったりしてとても楽しかったです。

スタッフ募集

実行委員会では随時スタッフを募集しています。池の平でのサポートスタッフ、ホームステイの受け入れ、または受け入れ先のサポートスタッフなど、何でも結構です。食事だけのサポートなど、短時間でも助かります。ぜひ皆さん声をかけあつてこの取り組みにご賛同いただければ幸いです。



サマーキャンプの思い出

いわき市 小学5年生

かたの もえ
片野 萌さん

サマーキャンプでは、とても楽しかったです。けど、キャンプの予定にあった話し合いで、項目がとても少なかったのが残念でした。あとサマーキャンプの日程を何日か長くしてほしいです。あとは特にありませんが、鬼ごっこ、花火などをしてとても楽しかったです。

このサマーキャンプは、3月11

家族からの応援

いわき市 在住

女性 K・Sさん

今年の夏は、キッズふくしまに参加させていただき、息子にとつて大変楽しい夏となりました。ありがとうございました。

夏になるとどうしても思うことがあります。四年生になる息子は、震災直後に小学校に入学しました。当時は放射能への恐怖が得体のしれぬものとして確かに存在しており、

日から始まったと聞きました。それでサマーキャンプで、スタッフの人とも親しくできてとても楽しかったです。これからもサマーキャンプが続いてほしいです。

今回のキャンプで一番楽しかったことは、みんなでバーベキューをしたことや、ナイトハイクや、中部北陸自然歩道、記念品作りなど全部楽しかったです。が、花火などができなかったのがとても残念でした。中でもうれしかったのは、好きな人ができたことです。とても優しくし

様々な理由をつけて、子ども達の活動も多々制限されていきました。その代表的な事が「体育」の授業であり、体育館の耐震工事が行われていたこともあって、彼らは一年間まともな体育活動が出来ませんでした。もちろん「プールの授業もありませんでした。

一年生という年齢で、プールの授業を経験できなかったことは、今になってもとても影響が残っている様に感じます。いろんな意味で伸びしろが奪われてしまった様に思うので

てくれてとてもうれしかったです。それが一番の思い出です。

ホームステイ先は勝念寺さんで、とても快適で住みやすかったです。勝念寺へ泊まったのは今回初めてでしたが、スプリングキャンプの時豊島さんの家に泊まった時に、一度勝念寺にごはんを頂きに行つたことがありました。ホームステイは初めてでも緊張していたけど、みんなが優しくしてくれて緊張がほぐれました。それに、お兄ちゃん、おばあちゃん、おばちゃん、おじ

す。もちろん水泳だけでは無いのですが、季節が限定されるのでより強く感じるのでしょうか。

あの年、一年生という本当ならたくさんの新しい事に巡り合えるはずだった「時」にこの子たちはどれだけ多くの事を我慢し、窮屈な思いをしたのでしょうかね。

キッズふくしまに参加させて頂くときに私が願うことは「思い切り羽根を伸ばしてきて」ということです。少々甘やかされ過ぎのような気もするのですが、この時だけは構わない

やんみんなおもしろくてやさしくてホッしました。

一日目の夜ご飯はカレーで、自分たちで作りました。とてもおいしかったです。最後の日は、パエリアを食べました。パエリアを初めて食べたのはスプリングキャンプで豊島さんのお家で食べた時です。初めて食べた美味でした。またパエリアを食べたいです。今度はいろいろな場所にホームステイに行きたいです。

一週間とても楽しかったです。のだと、お心遣いに親も甘えさせてくださいたいです。窮屈な思いをさせた代わりにと。

奪ってしまった時間や経験を取り戻してやることはできないけれど、その代わりとなる事を選ばせてやることのできるのにはせめてもの救いです。そしてその機会を与えてくださった「キッズふくしま」の活動に、心より感謝しております。本当にありがとうございます。

この夏は「日本海」を存分に楽しんでくことを元氣いっぱい報告してくれました！

今生活の中で感じていくこと

二本松市 在住

女性 T・Kさん

あの日から、もう二年半・・・早いなあ・・・。上の子はもう四年生。私の姿を見つけると真つ先に駆けてくる幼稚園時代を思い出します。この笑顔を守りたいー守らなければ！それだけを考えながら過ごしてきましたが、なかなか親の思うようにはいきませんでした。

特に内部被ばくは一番気を付けていたことでしたが、震災後の学校給食のご飯が北海道産から二本松産へ変更になった際は、子供たちに理解してもらいご飯を持参させました。持参している子が、15人のクラスでうちの子たった一人でも当時はこれで子供たちは大丈夫だ！必要以上の被ばくは避けられたと思っていました。これから二本松産から県外産へ変更にはならないだろうし、下の子も含めて7、8年間はご飯を持参するものと当然の心構えでした。しかし、上の子が一クラスになる今年度からやむを得ず持参することをやめました。「33人の中で一人はやだな

あ」の上の子の言葉がきつかけでした。今まで

でいつさい文句も言わずに持参していたので、動揺してしまいました。と同時に子供の我慢に気づいてあげられなかった自分が情けなくなりました。今まで頑張っていたのでしようね。子供が成長したことで、親が言うて守れるころとは今はちよつと違うんだなと思いました。

部活の仲間に嫌がられるから保養には行きたくないと子供が言う、という話をよく聞きます。何年か後には、そんな問題にもぶち当たるのでしょうか。

ただ正しい判断ではなく生活に生きる判断をしていかなければならないと今は考えています。

キッズふくしまの思い出

福島市 小学3年生

齋藤 さくらさん

私は夏休みにキッズふくしまのキャンプに参加しました。二回目です。センターではナイトハイクが楽しかったです。馬やおかめが出て来てこわかったけど、すごく楽しかったです。クッキー作りなども楽しか

「キッズふくしまインたかだ」の活動にご協力をお願いします！

「キッズふくしまインたかだ」の運営に対しての助成、またそれに携わるスタッフの知識習得及び技術の研鑽のための助成を募っています。この活動を続けられるのも、皆様の温かいお気持ちのおかげです。

皆様からのご寄附をお願い致します。

- ゆうちょ銀行からの振込 -

口座記号番号

00500-1-101787

口座名 キッズふくしま たかだ

- 他金融機関からの振込 -

店番 〇五九

口座名 キッズふくしま たかだ

預金種目 当座

口座番号 0101787

ったです。雨がふった時もあったぞんねんでしたが、川にも行けたのでよかったです。

ホームステイでは、お友だちと五人でとまりました。みんなと一しょでとても楽しかったです。すいぞくかんに行ったりおいしいものを食べました。ホームステイの子どもとお友だちになれてよかったです。一番楽しかったのは、花火です。センターでは雨がふってできなかったけど、

ホームステイ先でできてよかったです。せんこう花火もやりました。6泊は長いかなと思いましたが、もつと泊まりたいと思いました。にいがたのスタッフの皆さんは、とてもやさしいです。

いつも夏と春を楽しみにしています。いろいろ、泊りの事を考えてくれて、ありがとうございます。また行きたいです。

